

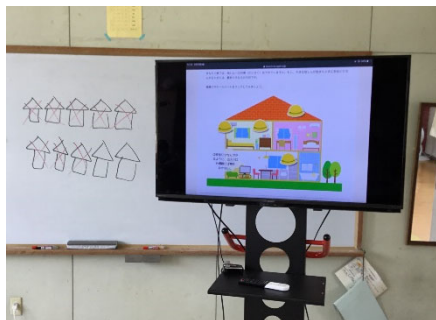


記入日	西暦 2020 年 12 月 11 日 (2020 年度のチャレンジプラン)
実践団体名	岐阜県立大垣特別支援学校
実践番号	2
タイトル	命を守る訓練・シェイクアウト訓練 様々な被害を想定した避難訓練
実践担当者のお名前	山本隆史

実践にかかった金額	ほぼ 0 円
実践の準備にかかった時間	数日
実践活動を実施した日時	西暦 2020 年 6 月～西暦 2021 年 2 月 * 2 月は予定
実践の所要時間	命を守る訓練 : 30 分×1 回 シェイクアウト訓練 : 10 分×6 回 合計 90 分
実践の運営側で動いた人の人数	4 人
防災教育の対象者の属性	特別支援学校児童生徒・教職員
防災教育の対象者の人数	約 380 人
実践を行った都道府県と市区町村	岐阜県大垣市
実践を行った具体的な場所	岐阜県立大垣特別支援学校
★実践に必要なだった特定の能力を持った人・物品・ツール・知識等	緊急地震速報受信機 (訓練モードがあるもの) 飛散したガラスに見立てた卵パック等 地域の防災士 (清流の国ぎふ女性防災士会会長 : 伊藤様)

達成目標	<児童生徒> ・避難場所と避難経路、整列の仕方を知る。 ・落ちてこない、倒れてこない、移動してこない場所を確認しながら安全に避難する。 <職員> ・基本の避難経路、手順を理解する。 ・児童生徒の実態に応じた安全な避難誘導が行えるようにする。 ・避難経路の状況を後続の職員に伝達し、情報共有しながら安全に避難誘導する。 ・新型コロナウイルス感染症に対応した分散避難方法を確認する。
------	---



どの力を身につけようとしたか？	知識・技能	大いに				
	思考力・判断力・表現力	大いに				
	学びに向かう力・人間性	かなり				
実践内容・方法	1. 命を守る訓練 ・年3回（4月、9月、2月）実施することを計画したが、新型コロナウイルス感染症の影響で計画を変更した。（9月、12月、2月） ＊12月はシェイクアウト訓練に変更 ○第1回命を守る訓練（9月2日・11日） ・避難場所での密集を避けるため、2日に分けて実施した。 ・訓練前に事前学習を行い、学級ごとに避難時の注意点等を確認した。 ・地震発生時の避難方法（1次避難）と火災発生時の避難方法（2次避難）を確認した。   ○第2回命を守る訓練（12月11日） ＊シェイクアウト訓練に変更 ・新型コロナウイルス感染症対策として、災害対策マニュアルに分散避難を追加し、検証のために計画した。 ・避難場所 <table><tr><td>小学部・中学部・事務部</td><td>高等部・寄宿舎</td></tr><tr><td>スクールバスゾーン</td><td>グラウンド</td></tr></table> ＊活動場所によっては近い方に避難する。 ＊雨天時は体育館に避難する。 ・トランシーバーを使用し、安否確認や自主防災班（搜索・警備・救護）の活動指示の連絡方法を確認する。 ・卵パックや食品トレーを廊下や階段、自動ドア前に散乱させ、地震によるガラス飛散や自動ドアが使用できないことを想定し、避難経路の状況を伝達しながら避難する訓練を計画した。		小学部・中学部・事務部	高等部・寄宿舎	スクールバスゾーン	グラウンド
	小学部・中学部・事務部	高等部・寄宿舎				
スクールバスゾーン	グラウンド					



	・地域の防災士（清流の国ぎふ女性防災士会会長：伊藤様）に訓練に参加していただき、助言をいただく予定だった。訓練を中止したため、実施要項を見ていただき、助言をもらった。 2. シェイクアウト訓練 ○毎月実施（6・7・10・11・12・1月） ＊命を守る訓練がある月は実施しない。 ○訓練の流れ ・緊急地震速報（訓練モード）を流す。 ・児童生徒及び職員は安全な場所でシェイクアウトする。 ・地震音を流す。 ・児童生徒及び職員は地震音が収まるまでシェイクアウト姿勢を保持する。 ・地震音が収まったら、落ちてくるものや倒れてくるもの、移動してくるものはないか確認する。 ○工夫した点 ・7月、11月、12月は非告知で実施した。 ・家族との外出先等、学校以外の場所で地震が発生した場合にも対応できるよう、緊急地震速報受信機（訓練モード）の警報音だけでなく、エリアメールでの通知音等、様々な警報音を用いて訓練を実施した。 ・安全な場所に避難できたか、危険な物は何かが分かるように、シェイクアウトしたまま事後指導を行った。
得られた成果	・地震や火災が発生した場合の避難方法が分かり、落ち着いて避難できるようになった。 ・緊急地震速報が発表された場合、素早くシェイクアウトすることができるようになってきた。 ・地震が発生した場合、何が危険なのか、どこが危険なのかが分かってきた。 ・新型コロナウイルス感染症に対応する避難方法をマニュアルに追加することができた。



どのくらい身につきましたか？	知識・技能	かなり
	思考力・判断力・表現力	かなり
	学びに向かう力・人間性	少し
課題・苦労・工夫	・新型コロナウイルス感染症の影響で、計画していた訓練が実施できなかったり、内容を変更せざるを得なかったりすることが度々あった。 ・岐阜県では、年度内に数回地震があった。内陸型の地震の場合、緊急地震速報よりも先に揺れがくることもあり、児童生徒が対応できなかったと保護者から教えていただいた。「緊急地震速報が鳴ったらシェイクアウトする訓練」しか実施しておらず、揺れたらシェイクアウトすることを身に付けるための工夫が必要だと感じた。	

★運営・実践の担当者が協力を求めた人や団体（関係者）について	
関係者の名前・団体名	伊藤三枝子様（清流の国ぎふ 女性防災士会会長）
関係者の説明	被災地でのボランティア経験が豊富な方で、学校や自治会を対象とした研修会や講座で講師を務められている。
関係者の連絡先	jyoseibousai2017@yahoo.co.jp

★この実践事例を通じてあなたが学んだことや誰かに伝えたいメッセージ	
伝えたい相手	
伝えたい内容	毎月実施するシェイクアウト訓練では、日を追うごとに児童生徒の動きが格段に良くなりました。知的障害や発達障害がある子どもたちにとって、繰り返し練習することの大切さを実感できる実践であったと感じています。